

COE-INES IIS Business Trip Report

期日：平成 17 年 3 月 1 日～3 月 6 日

出張者：原子核工学専攻 博士後期課程 2 年 三浦照光

出張先： Hotel Grand Aquila Bandung, Indonesia

COE-INES インドネシア国際シンポジウム参加報告

インドネシア、Bandung 市で行なわれた COE-INES インドネシア国際シンポジウムに出席し、1 件の研究発表を行ないました。本シンポジウムでは、東京工業大学原子炉工学研究所、Bandung 工科大学、インドネシア政府機関である BATAN 及び BAPTEN 等が参加し、日本とインドネシア双方の原子力開発に関して議論がなされました。3 日間のシンポジウムにて、大学及び政府関係者らによる講演と学生らによる 30 件の研究発表が行なわれました。学生による研究発表には 20 分の時間が質疑応答を含めて与えられ、私は発表後に 5 つの質問を頂きました。その内の幾つかは、研究の焦点を的確に捉えたものであり、今後の研究に役に立つものでした。

インドネシアの原子力開発に関しては無知に等しい状態で本国際シンポジウムに参加したのですが、シンポジウム中の講演等を通して、インドネシア政府が原子力発電所建設に前向きである事、また、日本以外にもインドネシアにおける原子力開発に対して援助を行っている国が存在する事等を知りました。他国の原子力事情に今まで関心が無かったのですが、諸外国と複雑に関係していて興味深い問題であると思いました。

本国際シンポジウムは私にとっては 4 度目の国際的な発表の場であり、2 度目の海外渡航にあたります。英語によるコミュニケーションの機会がこのような国際シンポジウムに参加する事で飛躍的に増加し、自分の英語スキルが上達していくことが感じられ、英語能力向上と言う面から本シンポジウムへの参加が非常に有意義であったと感じます。シンポジウム参加中は、最初に国際会議に参加した時よりも英語に対する恐怖心が大きく減少しており、むしろ英語による会話をこちらから望むようになっておりました。研究発表における英語による質疑応答にも、臆することなく臨めるようになり、英語能力教育として国際シンポジウム参加支援の恩恵をこうむれた事を幸福に思います。

謝辞

研究、英語能力育成の両面から有意義であった本国際シンポジウムへの参加を支援していただき、COE-INES プログラムに非常に感謝致します。